

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 6月 30日

事業所名 放課後等デイサービスそら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%			適切です。
	2	職員の配置数は適切である	83%			適切です。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%			障害区別は精神のみの受け入れであるが、バリアフリーには対応している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71%	14%	定期的なミーティングや情報共有がされていると思います。	今後も情報共有を継続していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	57%	14%	保護者様との個別連絡や対応を行っている。	今回が初めてのアンケート調査になります。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	43%	29%		今回が初めてのアンケート調査になります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14%	43%		外部評価は現在行っていないので、今後の課題だと思われれます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	71%			研修は月に1回以上行っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	86%			今後も相談支援事業所と連携し、放課後等デイサービス計画を作成していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	29%	14%		アセスメントツールは使っていません。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%			複数名の職員で分担して行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	71%			今後も工夫を続けていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	71%			スケジュールは状況に応じて都度作成しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			今後も個別活動と集団活動を適切に組み合わせ計画していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%			シフトの関係などにもよりますが、できる限り確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	43%	14%		終了後は送迎などの都合もあり、できていないこともあります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%		支援の検証や改善につなげることは今後の課題である。	記録は欠かさず残していますが、検証や改善にも今後取り組んでいきます。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	43%			所内相談は希望時と、相談が必要な場合に実施しています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	33%			ガイドラインを今後改めて確認する必要があると思われれます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	71%			児童発達支援管理責任者を中心に児童指導員も出席しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	71%		学校により対応が異なる。	学校との連携は今後さらに深める必要があると考えます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	33%	17%		障害区別は精神のみの受け入れであるため、医療的ケアが必要な子どもを受け入れる予定がありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	14%	29%		中高生の利用も多いこともあり、あまりできていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	67%			ひとりの児童について、すでに卒業後利用することになった障害福祉サービス事業所へ情報共有した実績があります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		43%		これまで当該機関に関わっていた児童はいませんでした。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		86%		現在はありません。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		57%		現在は参加していません。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86%			今後も共通理解に努めます。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	29%	29%	提携のクリニックにてペアレント・トレーニングを行っております。	今後もクリニックとの連携に努めます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	71%			契約時に説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	43%			所内相談は希望時と、相談が必要な場合に実施しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		86%		新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため実施できていません。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	86%			今後も対応を心がけます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	43%			不定期でお知らせを配布しています。
	35	個人情報に十分注意している	100%			今後も注意していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	71%			障害区別は精神のみの受け入れであるので、特別な配慮はしていません。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		71%		新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため実施できていません。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	14%	29%		周知を徹底していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	57%	14%		開所1年以内なので実施回数は少ないが、定期的を実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	29%	43%		虐待をしないことは基本的なことであり、訴えが可能が児童が多数のため機会は少ないです。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		29%		身体拘束をしたことはありません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14%	14%		食物アレルギーのある子どもは現在いません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		43%		都度周知してはいるが、事例集としては作成していないため、今後の課題と考えています。